



関市板取の「杉」



■会 長 加藤照彦 ■副会長 西田泰幸 ■幹 事 伊佐治啓司



関市民 1000人が参加して創りあげた
シャインカーブリンアード「関二鳥」

D2630 ROTARY CLUB OF SEKI WEEKLY REPORT



SERVE TO CHANGE LIVES

2021 ~ 2022 年度国際ロータリーテーマ

『奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために』 SERVE TO CHANGE LIVES

RI 会長：シェカール・メータ

関ロータリークラブ会長テーマ

『和衷協同』 56 代会長：加藤照彦



本日のプログラム

第 2603 回例会 2021 年 8 月 5 日 (木)

「納涼例会・小瀬鶉飼観覧」

於：鶉の家足立

前例会の記録

第 2602 回例会 7 月 27 日 (火) 12:30

「新会員スピーチ」 山田義久会員

◆開会点鐘

◆会長挨拶



本日は、新会員スピーチということで、大変長らくお待たせしました 株式会社ヤクセル社長 山田義久さん 宜しくお願ひ致します。入会が今年 1 月でしたが、7 ヶ月間コロナ禍で、活動が最小限となりましたが感想など、お聞きできたらと楽しみにしています。

さて、先週の 23 日から東京五輪が開催され、熱戦を繰り広げる中、日本の金メダルラッシュが続いておりますが、8 月 8 日に閉会を迎えます。前回 1964 年の東京五輪は、高度成長下で開催され戦後復興を果たし、世界が目を見張る経済大国になった日本を象徴する大会でした。しかし今回は、その時とはまるで違う経済環境にあり、コロナ禍という大きなリスクを背負った開催となりました。新しい時代の幕開けになるのか、コロナ感染が広がり、国が莫大な借金を抱え、また不況に落ち入るのかは分かりませんが、現状新型コロナウイルスが企業業績に大きな影響を及ぼして要るのは事実です。サプライチェーンがグローバル化した現代のリスクが露呈した格好ですが、コロナの終息をじっと我慢を待たただ待つのか、それともこの間に次の一手を打つかによって、今後の企業競争に大きな差が出てきます。多くの企業が、知恵を絞り試行錯誤しピンチ

をチャンスに変えています。その例として「想い×連携」で、有名菓子メーカーが大量廃棄を減らす為に、ライバルメーカー同士が手を取り合い（菓子詰め合わせ販売）売上を伸ばしています。「サービス×非接触」では、ホテル・旅館が、少人数で効率よく運営するマルチタスク体制を整えて、客数に合わせた柔軟なオペレーションを取り、生産性を向上させています。「技術×アイデア」では、女性用下着メーカーが、余り生地を活用してマスクを製造し、介護や医療現場等に供給したり、「既存事業×新事業」で一番多いのは、オンラインでの営業あるいは販売で、旅行会社がオンラインで寺社参拝システムを構築したり、ブライダルやスポーツジムまでがオンラインを活用しています。このように今自社に有る優れた物に、何かを×事によりピンチをチャンスに変えている様です。仕事上、色んな企業の方々から話を聞きますが、今 設備投資される多くの企業は、コロナ禍がおさまり、景気が回復した時により良いポジションを取るためと言われます。ここにきて建設業にもコロナの影響が出てきました。資材の値上がりや、予算の締め付けがあります。県の本年度補正予算も 168 億円付きましたが、全てコロナ関係に回るようで、厳しい状況になりそうです。今「何か一手を」と日々考えております。そしてソフトの部分で、政府が中小企業に向けて、緊急支援を打ち出しています。金融機関などを通じて（融資制度・雇用調整助成金・支給要件緩和など）今後も情報収集に努めることは、大事だと思います。コロナ禍が終息し景気回復が見えた時、少しでも良いポジションからスタートしたいものです。しかし、まだまだコロナ禍は続きそうです。仕事もクラブの活動も力を合わせて乗り切って行きましょう。有り難うございました。

◆委員会報告

◎出席委員会 委員長 秋栢達也

会員 48 名中 出席 27 名 出席率 56.25%

◎ニコボックス委員会 委員 奥村敏教

会長・副会長・幹事の皆さん・・・山田義久さん、ご入会おめでとうございます。新しい仲間が増えて大変うれしく思います。本日は「新会員スピーチ」よろしくお願いいたします。

山田義久会員・・・本日スピーチです。よろしくお願いいたします。

林隆一会員・杉浦孝志会員・堀部哲夫会員・酒井泉会員・長尾一郎会員・加藤浩二会員・木村聡会員・尾崎嘉彦会員・三輪雄彦会員・林昇会員・西本理美会員・酒向徳享会員・山田一成会員・奥村敏教会員・栗倉晋吾会員・秋柄達也会員・・・山田義久さん、新会員スピーチ楽しみにしております。時間はタプリーありますので存分にお話ください。

◆「新会員スピーチ・私どもの会社について」

山田義久会員



新会員スピーチのテーマとして、何が相応しいか考えたのですが、やはり、私共の会社について、お話させていただきたく思います。2021年現在、株式会社ヤクセルの従業員は95名、東京、大阪、新潟に営業拠点、海外には、香港に調達拠点、遼陽に工場を構えております。主な商品は厨房用品（包丁およびキッチンツール）と洋食器です。山田義之が、“山田米穀店”、を営みつつ、個人企業でポケットナイフの生産請負を始めた1932年が、創業の年です。

当時はアメリカ向けの輸出がメインで、商社から提供された部材を組立てて、納品していました。この事業は、対米関係悪化で輸出が縮小し、更にその後祖父が出征したことで中断しますが、この段階で職人を雇用し、関連企業との取引関係を構築するなど、刃物メーカーとしての原型は出来ていた様です。山田米穀店を売却し、“合名会社山田刃物製作所”を設立したのは、1947年です。この時代も、ほとんどの商品は輸出されていましたが、60年代後半から、それまでの商社を経由した間接貿易だけではなく、海外顧客への直接販売も行う様になりました。なお、この時期使用していた。海外向けの商号“YAX”が、現在の社名“YAXELL”の基となっています。1976年、会社形態を合名会社から株式会社に、社名も“山田刃物株式会社”に変更しました。この頃から、海外顧客からの問い合わせに応じて、キッチンツール、洋食器の取り扱いを始めたことで、商品数が拡大し始めます。1985年以降は、国内販路開拓を進める中で、この傾向はさらに強まりました。1992年から現在に至るまで使用している、4番目の社名、“株式会社ヤクセル”は、社名に“刃物”を含んでいません。刃物以外の商品も取り扱っている、という実態に合わせ、且つ今後も様々な商品を取り扱う、という意志を込めたものです。弊社の特徴は、上記の

歴史を背景とした、多様性と一貫性です。商品は数千品目に及び、国内外で生産され、専門店、ネット通販、百貨店の他、テーマパークで販売されています。また、自社でデザイン、設計、製造する商品の割合も増えつつあります。代表取締役として現在取り組んでいるのは、これらの特徴を強みに変えることです。上記の通り、弊社はデザインから販売まで、社内で一貫して行えること、及び各部門が、多様な商品、顧客について知見を持っていることが特徴です。これら知見を、上手く融合できた時、ユニークな商材が開発できるのですが、これを促進するために、世代、担当をまたいだ交流の場、時間を作ってゆくことは、私の役割だと思っています。COVID-19感染拡大以降、インターネットを通じた売買は、規模、重要性を増しており、消費者は以前より、短時間で商品、サービスの選択する傾向が強まっていると感じます。この変化の中で、我々の商品にも短時間で、メリット、或いは他の商材との差異を理解してもらえ、デザイン、スペック（特に数値）が求められるようになってきました。その一方で、産地が持つローカルな価値の重要性も、増えています。産地間の品質差は縮まっていますが、それぞれの地域の持つ、情緒的価値（関市であれば刀鍛冶の伝統）は、根強いものだからです。皆様との交流を通じて、この地域の持っている価値についてより深く知り、個人と会社の成長を図り、併せて地域に貢献したく思います。今後とも、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



◆幹事報告

- ◎熱海土石流災害義援金について、28,000円
ガバナー事務所へ送金
- ◎例会終了後「臨時理事、役員会」開催
- ◎8月の例会予定表配布

次例会のご案内 8月17日(火) 12:30

「米山奨学生スピーチ」 王煜妍様